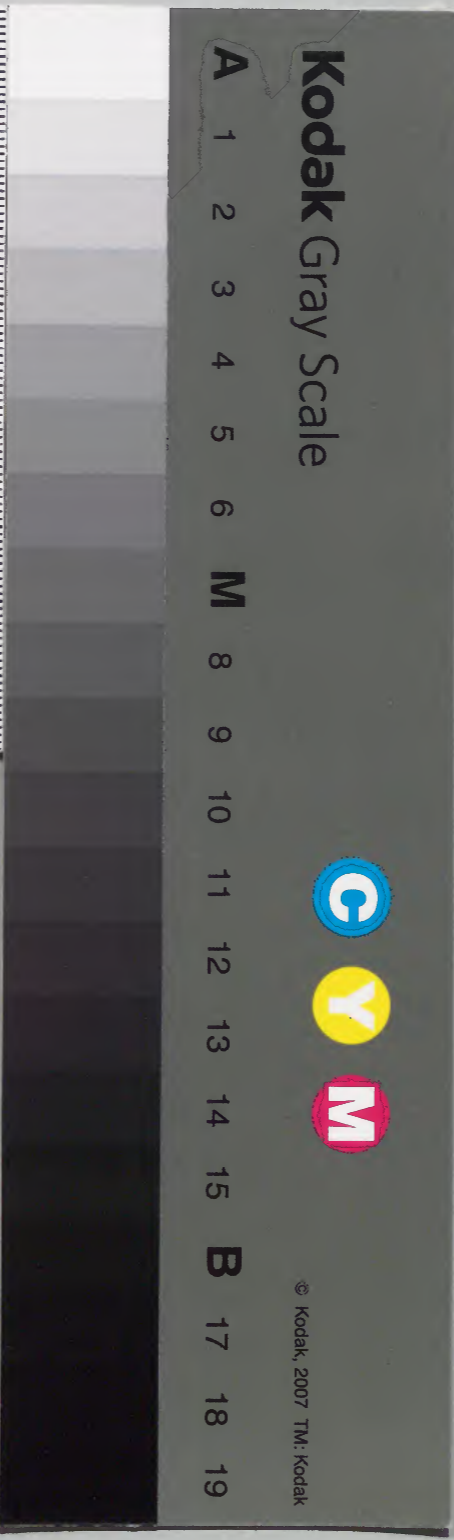


座石書

				和書門類
			一七六	
			一七四	
			一七五	
			一七九	
			一七三	
			一七二	
			一七	
			一	
			七	
			冊	
			架	
			函	
			號	

庫文閣内			
一五	一七		和
四	四		
函	五		書
一	九		
四	七		
架	冊		
	號		
	類		

内閣文庫	
番號	和 17459
冊數	7 (6)
函號	154 211



座右書卷第六

目錄

產引日蚤鳴弦

屋越引日

魔縁引日

宿直引日

鳴弦

隨兵

出陣帰陣祝

烏帽子澄也出

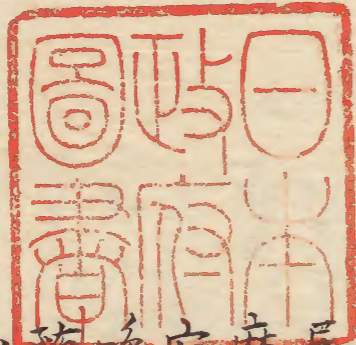
淳卷

甲曹

澄上帯

類貫

軍扇



花迺家文庫

淺草文庫

太刀刀
床机
旗
幕
トキノ声
首取付松
軍陣雜事
切腹人

○

并鳴弦

一 産引目射所拾遺抄云産引目射後の事白なるのたゞこをまて先二射て
 きて次射よれおまハ白ひされをまて下門自りハ落乃羽大射目自あり
 へ下ま向く射へす但家の作よりて産をいつ振り向て産あまこ
 ゆりやうの射る之同鳴弦と習れ時ハニツよりそりてこまてとつひる女子の
 時ハニよりそりてこまてとつひる一は得まこ

一 産の目射より射所お長記云産の目射よりハ白一を之矢白寛
 小羽の羽まてまて下門自ハ大射目自らんは産目自まても射射よ
 ハ白さ西まをまてこ産ハ白なるよりて二帖を中のなるよりて産ひて
 一をこつして一をまてまてちよるせて産あをいつ振りよて二はて男
 あまハ女子あまハ女子とて下門得まこ

一 又云産あまのあひげんの半男子女子ハ産ハ三ありてす下門九を女子
 あまハニツ中のふびこ産ニハとせなり

一 軍陣圖書云産の時門目射所同産目自おれ半よりハぬりらるる
 同弦とぬり弦あり

一 又云矢白寛ハ産の羽をけりて産まてハ白さえりあまてそく産し
 かんり産も不若但略依之糸のえりや秘事とす産と上まきをハ左え

産引目并鳴弦

十段あり

一 是如記を産所の付あるはみまきく対す 小笠原 流はいふふ存ひきく十二

一 対より方字書を強うらす事 中略ハ同ハ文 又産所外とせし只すまひなり

一 又云産所の産目対する事 トコヲ十二 但白濁の咽もてもく

一 又云産所の産目対する事 トコヲ十二 但白濁の咽もてもく

一 又云産所の産目対する事 トコヲ十二 但白濁の咽もてもく

一 又云産所の産目対する事 トコヲ十二 但白濁の咽もてもく

乃引目終て送るの後を移す引目射を

一 又云方極の引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

おまきふくてふたね事あり 自云云新波細川富山は三家ヲ三職ト云内何レシテモ管領職

一 又云弦弓の引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 又云引目射の引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 法量也 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 射子搔副記 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 赤漆 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

一 引目射 引目射は又おまきも仕は例も多し此大各

おいとんと云 貞丈云けし月之産後のこのお月目の上をたんとハ産婦の

一 又云産お乃時めつらん乃串月目射をく後上ははるれ中管を縁の板又板をわきしおし南で弦をひくやう上ははるれ弦をこくぬ 貞丈云

らぬ上ハ弦をこくへて さすす ひくす 男子はけけお音よこつお中二院二可

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

女乃子あゝバニ夜のそりあそとくへー

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

一 又云は 女子の時ハ 小全在産時 おけナル ついでして おん

弦音のむむ程よをよする津ありいやと弦おとする時おんすり 忍いそと
うとこあへ魚貞文云そあへ魚 是も一皮くよめいきんの皮とよ唱色
七日の間おけうと一和月日を對て後刻めいきんおすしをやぐそそれ
なあよたうとそそ人よいらをすへんのちめいきんの時よそとの
すうとく

一 又云和月日ごとそ一なりきも音よこおすよと曉こひ九つ七日のそ
可對是ハ男もも女もも同およう一是もたうとを對こそ和脚おんす
お和おんハお多すす

一 又云おんきんの時ハ和月日對付も人おをいごきそ因ハ南東むひてす
一 又云七日のそハ程進深おして別火うと一お五ハ或ハおひしれ之例式の上
下あり一和月日の時ハ^{ラウソクナリ}ををりゆそとよす對ふこと對の
るは杖おはあし一うとこを對て人ハ和月日の時ハたこのうとを
對ふ

一 一のうらハ和月日のそお和も互は
一 又云和月日對付の時ハ和月日とよを對する矢とらハあうとす人ハ別對る
うらよいらあり是も和月日對付といとよよと一是ハ七日のそハ事こ

一 前のおはえんの別一皮の事あり貞文云音を唱さ
一 又云和月日自の時ハ和月日とよを對する矢とらハあうとす人ハ別對る
時ハ和月日とよを對する矢とらありし夫のおハ和月日自の方をとりて
とすの方をおと

○

一 在越引月 軍陣圖書云む 棟 越引月の事 引月をこけて

村岡の東南引月を向うはより西へ向て射を不若者病者あとの
折務は射まはさば折るる家此棟をよこさぬ可射越引月大射引月
より射やこの引月を二をこけてよき一ツを弓よききてはくはひて
むゆを細て独りの足らざるをこけてはくはひて射を細て可射引月の
意又いほくはくはくも不若者人の棟を射すは是れは可射引月
て射引月の左は是れあけてまをこけて後足をとくと土へ可射引月
こりの引月射引月より限るるゆゑ是れは細説也 棟て引月の足らざるは
まをこけて引月のあきえ

一

射と撥副記云をありは引月射引月こり引月との事ありより
独りのたいといふ又右は是れよりあき可射引月ハ例式大射引
月赤漆なり射所魔縁乃わある家の棟檜より可射引月射引月
ひひを檜より放ひ陰陽をわらうて北より南へ引月を射略し引月
引月はいといふからまの射独り乃わといふ引月を細て是を右よ
りより引月引月引月をこけて引月二をこけて引月一ツの引
目を引射引月おとより引月一せぬ左の是れは引月をこけてあげ
まひすをこけておとより引月をこけて引月の引月をこけて

在越引月

つく付足のはりえをまるとふに細め又射付ハ前のゆくに是のえを
あきまてふびすれ方をまめて回鳴りて前へ戻つてまをばては是乃え
とえつとあきあきあていひかやうに三度目自をこふがうはは目自をこふ
たいえいそり又その射をハするに毎度是をこふ又踏細目自をこふ
丁射目自初めハ心中にいふて魔生をまうとけハ南ハ幡大菩薩
孫ハ氏の神はまうりゆくとふうに初念してお三度めのまを放まうに目自
官ハこつ夜半ハこつ曉ハこつ候へり以上九度射へり夜ことハ南ハ
幡大菩薩と可唱二日も七日も可射目自一初九つ入也貞丈云南
はとち菩薩のこまをまうハ幡大神宮と唱へる事ありハ幡大神ハ應神天皇也併ハ
あらずとせむ南ハ大菩薩の号をい除きまうへり

○

一 魔縁化生引目 軍陣圖書に魔縁化生はあふとありて射目自棟
破乃目自あ射付ハりこすりて三度ハ右の足よりあて出て二足踏
てす射いそつハ例式申ハ三度の足踏のやくらうに秘法ハ聊人傳り
又云執理ハ邪魔縁のあふと射付ハ右の足を第一足あて出して射く
名成射ハ是れハこつこつあてつてす矢さくり矢を可射ハ秘法ハ
山等の尾めくつれらるるまうに右の足をあて出して魔縁のあを射ハ
ありとくすとえりあハち秘法ハ

一 又云ハ幡及義家めいきんをばうにこつ夜とハハられふさうを
まて一度あて少間をまて又一度あて少間をまて一度以上三度あ
てりこつこつハ夜ハ弦ハりてこつ夜乃射よめをまては
をり人あてこつ夜とハ中ハ之魔縁の邪氣退治とハ射後ハ
一 圖的圖書に内向を申ハ射付ハ自然魔障を退る射者ハこつ夜ハ
あむむけてハ道ハ物をまては口傳りてまては射ハあて出す足右
あて始りて唯の時ハ左とまて出すまては射ハ右とまて

一 高忠圖書に初引目射者ハ大射目自也けるのにおもはま目自より大
射引目自ハ初射者ハ古人中射ハる也近比ぬいたりあけきなり

魔縁引目

○

鳴弦

射所拾遺抄云云此弦言はるは音をさへしと云ふこと二つ二つぬへ一は傳
ふことぬへはゆふい之候は向てさへしと云ふこと○又同書在り鳴弦の音を
所引目の各ありあり記す

一 射所抄記在る所のいりんは音を引目のおこあす

一 又云軍陣少の弦言半一す也あすのせありの二一すより音を平と
云ふは弦言とありあり

一 又云よる人のおの時の弦言半 弦言をさへし弦をさへしぬへしちるる
細くはるは

一 軍陣少事云々ある弦言細く弦言とて二又も細く弦言とハ事云す
所ことと弦言してはる弦言ははつらつら音を細く弦言と云ふ候して弦言を
何なりせよ後よる所の時のを細く弦言と云ふ又あるす弦言とハ弦言
をさへし音をさへししてはる音を云ふ

一 又云用むの弦言は二二三之先はあてがらをさへして二二すは二二以上九也
何と云ふ九つあて弦言のたるとは弦言よを掛く二すかあひをさ

一 又云愁乃時の弦言ハ二二以上十初之是ハ二二以上十初之是ハ二二以上十初之是ハ
くすは弦言ハ弦言て毎初之乃四二ハをさへしぬへしちるるのいふこと

鳴弦

○

一 軍陣祝射沛拾送抄云後乃事是も中門を南へ向ひしる者のかう
あつたよりけこらちあひうらう昆布是あり各三あよここら
あひの敷こけ又六五中うちう七こぬここれうちあひしうあひ和を
降りてのさうあれそやうらうこぬうちあひし是又あ皮を麻あよ
うらあひを前へあして白をちとさひさそあむ程よあこら
あ付は白をを左へぬ

○又云を門立てあつて中門の書たれ希うてあ屋一了れ及南より
川をこ但家の作よりうしこれあけうむたて可きあ軍陣出付
中門のほはよりぬ

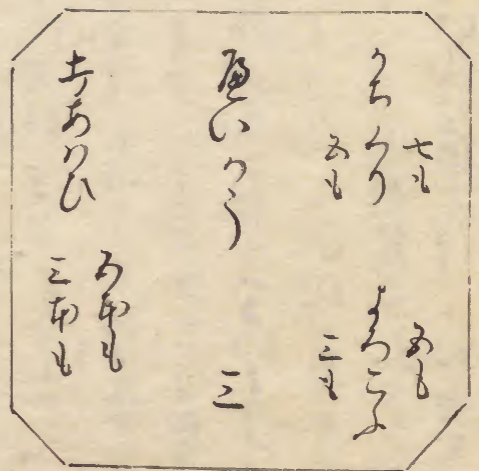
○又云礼外ニニタイナリ
一をを向てをまここゆこぬあ付はあ付へ向てこゆ
又云

○軍陣の出はあよのよするあまのいあよ一川出くゆる付同
あしあふ出い付はあまの上帯をとけて結あま一回後帯をもゆい
あす一又自然あをあまをちま一あ付もよあひあまゆい
一いあ核あまあ付も可ぬ

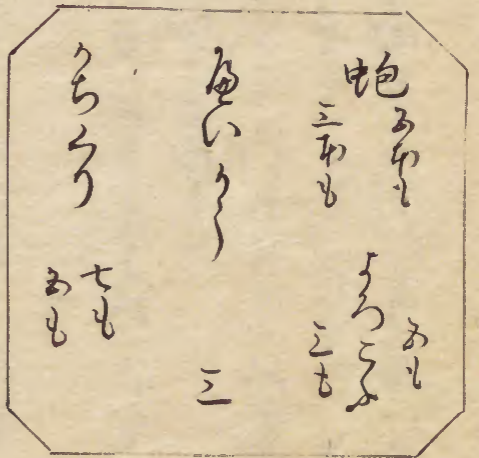
一 弓箭条々云於軍陣弓弦を上へあます内へあてあ
出陣祝

一 軍陣用書云出陣時後有汝身酌以半

出陣之時



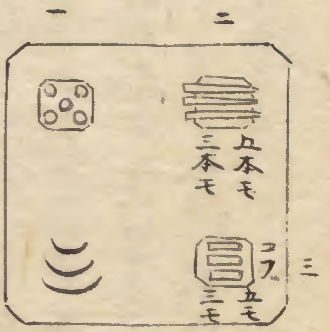
帰陣之時



看をうんちかけれよと先づぐぐよ切さるるをあらし魚いりかめかくよお
 およよすえぬこそお之様をおおあすえ(まじ)こ夜のここの出陣時を
 え番は蛇のちらさ方の下記より中記より口を付て尾の方より序さ
 方(す)い酒をのむ(一)そ次二秋めはちうをわらひく酒をのむ(まじ)
 三秋三秋目(まじ)の酒を切のけて中をい酒をのむ(まじ)毎軍
 どの時おひびくう(まじ)こ色(まじ)我家は軍を夜よ(まじ)の
 九回を南向て夜の家のはり(まじ)南(まじ)む(まじ)東(まじ)む(まじ)
 東南(陽乃方なり)と(記)也

一 又云可敬やの半一人をす(一)初秋(まじ)びく(まじ)二秋(まじ)び
 と(ま)入(ま)左(ま)り(ま)て(ま)又(ま)ま(ま)び(ま)び(ま)と(ま)入(ま)之(ま)秋(ま)め(ま)び(ま)び(ま)び
 と(ま)入(ま)之(ま)上(ま)九(ま)を(ま)を(ま)人(ま)の(ま)ま(ま)ぬ(ま)之(ま)後(ま)て(ま)や(ま)ぞ(ま)看(ま)を(ま)け(ま)り(ま)て(ま)あ(ま)ぢ
 (一)め(ま)め(ま)ら(ま)ひ(ま)び(ま)を(ま)ま(ま)て(ま)は(ま)む(ま)ひ(ま)て(ま)ま(ま)一(ま)を(ま)ら(ま)時(ま)も(ま)ま(ま)わ(ま)り(ま)と(ま)あ(ま)ま(ま)も
 う(ま)ら(ま)一(ま)を(ま)ら(ま)ま(ま)ら(ま)ま(ま)と(ま)び(ま)と(ま)入(ま)酒(ま)を(ま)卒(ま)入(ま)之(ま)は(ま)酒(ま)を(ま)の(ま)尾(ま)の(ま)也(ま)
 一 又軍(ま)之(ま)限(ま)す(ま)兵(ま)具(ま)を(ま)せ(ま)い(ま)ゆ(ま)ゆ(ま)法(ま)を(ま)付(ま)て(ま)東南(ま)一(ま)向(ま)て(ま)あ(ま)か(ま)ふ(ま)可(ま)能(ま)
 陸(ま)の方(ま)ぬ(ま)習(ま)也(ま)何(ま)時(ま)も(ま)軍(ま)之(ま)の(ま)酒(ま)を(ま)人(ま)の(ま)は(ま)せ(ま)ぬ(ま)之(ま)は(ま)我(ま)独(ま)夜(ま)之(ま)の(ま)
 之(ま)後(ま)は(ま)看(ま)を(ま)あ(ま)を(ま)一(ま)に(ま)け(ま)り(ま)て(ま)人(ま)の(ま)ま(ま)ぬ(ま)之(ま)は(ま)我(ま)独(ま)夜(ま)之(ま)の(ま)
 と(ま)ぬ(ま)之(ま)酒(ま)を(ま)の(ま)う(ま)ら(ま)ま(ま)ら(ま)す(ま)一(ま)を(ま)は(ま)何(ま)と(ま)て(ま)う(ま)は(ま)何(ま)を(ま)ま(ま)す(ま)こ(ま)ら(ま)ぶ
 め(ま)ぬ(ま)時(ま)は(ま)ら(ま)ま(ま)ら(ま)ま(ま)二(ま)は(ま)く(ま)ま(ま)あ(ま)て(ま)そ(ま)中(ま)の上(ま)ま(ま)ら(ま)く(ま)こ(ま)の(ま)時(ま)は(ま)二(ま)つ
 め(ま)て(ま)て(ま)中(ま)ま(ま)ら(ま)く(ま)ら(ま)く(ま)蛇(ま)例(ま)武(ま)の(ま)か(ま)ら(ま)ら(ま)一(ま)赤(ま)蛇(ま)は(ま)出(ま)陣(ま)の(ま)時(ま)は(ま)細(ま)さ
 尾(ま)の方(ま)を(ま)ら(ま)ひ(ま)て(ま)の(ま)右(ま)ぬ(ま)之(ま)序(ま)さ(ま)の(ま)方(ま)ま(ま)口(ま)を(ま)付(ま)て(ま)尾(ま)の(ま)方(ま)を(ま)序(ま)さ(ま)方(ま)より
 序(ま)さ(ま)方(ま)へ(ま)ら(ま)ぬ(ま)之(ま)未(ま)序(ま)く(ま)ぬ(ま)之(ま)也(ま)汝(ま)を(ま)し(ま)て(ま)あ(ま)と(ま)を(ま)あ(ま)ら(ま)あ(ま)り(ま)て(ま)ゆ(ま)ら(ま)ら
 申(ま)あ(ま)ら(ま)夜(ま)を(ま)我(ま)を(ま)一(ま)軍(ま)之(ま)の(ま)を(ま)具(ま)是(ま)を(ま)も(ま)ま(ま)ら(ま)何(ま)も(ま)又(ま)後(ま)三(ま)時(ま)は(ま)夜(ま)之(ま)
 一 又云(ま)帰(ま)陣(ま)時(ま)は(ま)汝(ま)の(ま)時(ま)は(ま)初(ま)秋(ま)より(ま)ら(ま)く(ま)を(ま)ら(ま)ひ(ま)て(ま)酒(ま)を(ま)の(ま)む(ま)二(ま)秋(ま)め(ま)は(ま)蛇(ま)の(ま)序(ま)さ(ま)

砲陣附



平甲はだりすすへも是れ同し

- 一 又云砲陣して流の付ハ初敵よりちうりをういて酒をのむこ二えりや砲の
 度き方のうねをちと切ておあよ直てて切目よりちをき尾の方をういて
 酒をのむこ二えりやのうねのちを切てのけて申をういて酒を乃
 むこ砲のちひれ斗出陣と帰陣とうりや
- 一 又云のーとちうと出陣と砲陣と並れ初て砲の出陣の付ハ左ここぶい毎
 度並おはりうりや
- 一 又云ちやく豊て 負丈三つ 後へちうりすすへも是れ同し砲の左の方よ
 ひつとひてあるとれもちうりすすへも是れ同しと二つ今後のを
 ちく入ちうりのすこー二度入ちうりをまびくとりて砲今後よちく入を
 はびとひいてちうお二り益の時まびとひいてちのちくかちうりやちうり
 ちうりてまびとひいてかちうり又まびとひいてちく今後ちうりのちくかちうり

- 一 度砲をち入るも酒をち入るぬい
- 一 又云めいまびくとまびくとまびくとまびくとまびくと 負丈云まびと 砲をち入る者也 負丈云まびと 砲をち入る者也 負丈云まびと 砲をち入る者也
- 一 又云砲陣して流の付ハ初敵よりちうりをういて酒をのむこ二えりや砲の
 度き方のうねをちと切ておあよ直てて切目よりちをき尾の方をういて
 酒をのむこ二えりやのうねのちを切てのけて申をういて酒を乃
 むこ砲のちひれ斗出陣と帰陣とうりや
- 一 又云のーとちうと出陣と砲陣と並れ初て砲の出陣の付ハ左ここぶい毎
 度並おはりうりや
- 一 又云ちやく豊て 負丈三つ 後へちうりすすへも是れ同し砲の左の方よ
 ひつとひてあるとれもちうりすすへも是れ同しと二つ今後のを
 ちく入ちうりのすこー二度入ちうりをまびくとりて砲今後よちく入を
 はびとひいてちうお二り益の時まびとひいてちのちくかちうりやちうり
 ちうりてまびとひいてかちうり又まびとひいてちく今後ちうりのちくかちうり
- 一 又云公方極軍陣のは者ハ乃一砲即ち一砲を日印をちと云

草ノ紋ニアル獅子ノ目ハ

一 又云ふとにちや高竹のまゝの極熱の付くをこれ評ふはうせうなる
又ハ城ををせむる時をうとてふあゝのけううてこれいんけいけい
うとて中ノこけあり

七物

一 又云ハ方ちのわぶとよハ想してちや高竹けぬるあんこ
一 又云云々ぶくそくはるしおのりきまをさうぶをいりしうなる
一 出陣支書云七物ナツモノとあり申渡をてち力をいさうあをさう多を有ひ
ろを巧ぬををてふとをさうの半こ
一 扇渡云具是のひ川のゆえのゆゑハあさぎや方の家の紋を
也二幅割幅一ッ入ニ唐およそハせず

七物

ケシヤウ
ハカニ

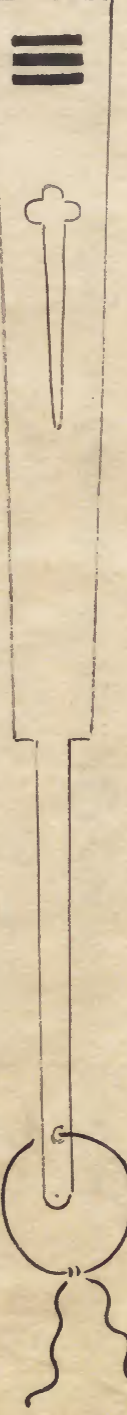
一 又云甲のぬすハ二回斗あいをとて之の根子紐渡を根子又云夫ノ
根子水カコラ
スルト云流アリ九甲申ヲ射ヌクニハ近キニレキハナレイカニヨクキタヒタル夫ノ子ニテモ又何ヲ夫ノ子ニ
スリタリトモ十回ハカリモ遠クテハヌケル事ナレ鐘武者ヲ射ルニハ必同近ク引ヨセテ射ルモノナリ
況書云用抄云七ツ道具とさうゆ見具是の同くか同をカ同多あて同りり
同りりさう同りりとさうこを七ツ道具或ハセらむと云あり 貞云同くまを
用ノまナリ
一 又云小具是出立とハ白のひをえ上ノ肩衣けをさう袴カズマキよふよをばしのど袴
をしてたカをさう評巻をばゆ又ハけさう袴ハ幅袴乃事こ

一 諸圖書條々云正月廿日必具是此候とて候也小豆ハ入てあうむる事
たあるあやすち也小豆ハ者それ腹切之儀之しむサをサチ海へ潤て可候
かりサハきあり事のと云い句を以て用也 貞云正月具是乃候と云ハハ具是
具是をハ軍指の神跡とあがてて具是よさうさうハ軍指を子ハ多ハ軍指とハ健彦推尊あり
一名経都主神とハ中なる是孝隆國麻呂大明神之神代ハ神惡神を退治ハ多ハ俗ハ
大黒天辨才天魔利支天ハ二天を軍指と云ハちやすこハ二天ハ日中の神とあす佛法ハちや天邪
とハ扱を佛のをさハ也ハ二天日中を武功をさうさう者さう用ハる候
一 又云具是のしむしむあひをさうハ我家の紋を有はり評書を布あり
唐おたはる用ちのたのいハハ菊をさうさう思皮ちや

○ 一 鏡上帯 出陣書云 上帯 指辰の半 九尺五寸 一人より一丈のみす
る 布ハ十九ぬのこ七ツヨキウコシケテヨクサを草ヲモミ 繕ウシテ 蜀ウシ
布の好ヤリ付也
一 弓法私書 一 云 上帯ハ寸法あり 人の腰のふとよよりて可也

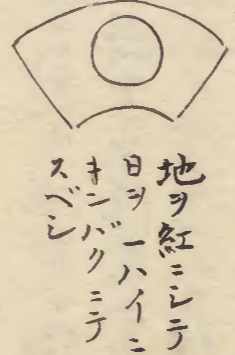
鏡上帯

一 又云大将の物を表す所の扇は、赤きものありて、白きものありて、
 一 又云、赤きものを扇つる半、白きものを扇つる半、
 一 又云、赤きものを扇つる半、白きものを扇つる半、



一 隨兵日記云、扇のありて、白きものありて、赤きものありて、
 を出せし、同表に、赤きものを扇つる半、白きものを扇つる半、
 一 又云、赤きものを扇つる半、白きものを扇つる半、

一 又云、赤きものを扇つる半、白きものを扇つる半、
 一 又云、赤きものを扇つる半、白きものを扇つる半、

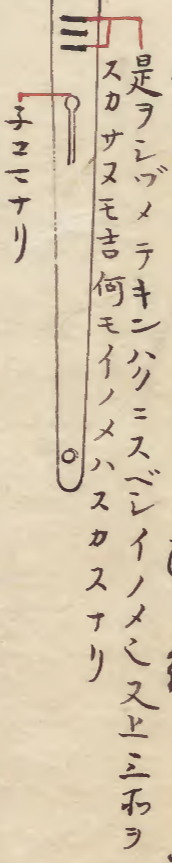


地ヲ紅ニシテ
 日ヲ一ハイニ
 キニハクニテ
 スベシ



地ハ空色アサギ
 月星ハ白ハク也

一 又云、扇の骨十二、黒ク長サ一尺二寸、幅あり、黒皮に、細クふくらみたる、
 一 又云、扇の骨十二、黒ク長サ一尺二寸、幅あり、黒皮に、細クふくらみたる、



是ヲレツメテキニハクニスベシ、イノメニ又上ニナラ
 スカサヌモ吉何モイノメハスカスタリ

キニナリ

の上は佛指を初指中にて幅をわの長一丈二尺よりをふし吉日吉時を
えらひ東南陽の方へ向てまきこ

一 幅をまきこける時ハいもまきこるに裁けハ柳のうき板ハ幅の布とまきてまきこ
弦をまきこるを左ハ弦と右ハ板とまきこるをまきこるにまきこるにまきこるに
ろと弦との間よりまきこるに裁てまきこるに九字の文摩利五天れまきこるをま
きこるにまきこる

一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

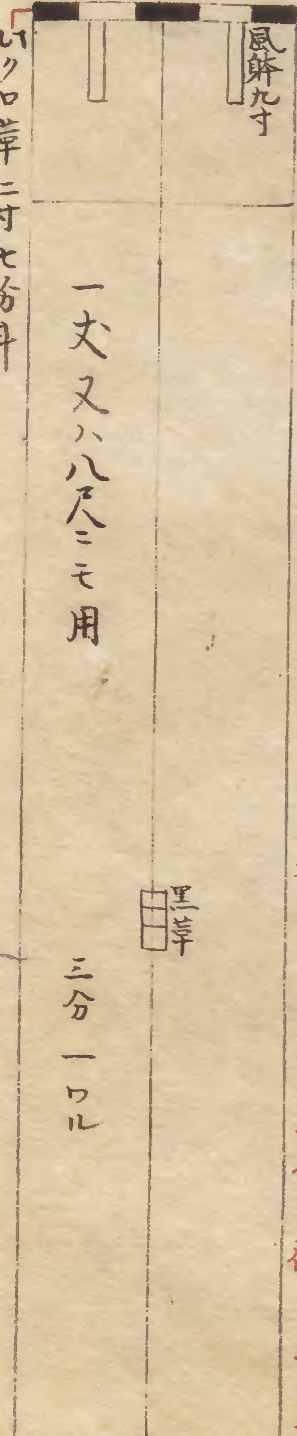
一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

一 又云幅のぬひ板のぬひ板をまきこるに左をまきこるに右をまきこるに幅の上よりまきこるに
先と後よりまきこるに幅のぬひ板をまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
てまきこるに又ハ板のぬひ板の上よりまきこるに先と後よりまきこるに幅の上よりまきこるに
ぬひ板を幅のぬひ板とまきこるに陽の方へ向て午の年ハ男系をまきこるにぬひ板をまきこるに
即命口星被軍星謂こ

風鉢ハ
風帯也



負丈云風鉢ハ風帯本字也旗ヲ巻テ
此風帯ニテ結ヒ置也皆ニ付ルニハ旗ヲ
巻タルニニテ付ル也付テ後トキ下ス也

又字をハ甲乙壬癸庚辛巳日吉之丙丁戊己悪日あり

一 又云旗伊袋意よりする陣元の付前より忍路跡より後より忍

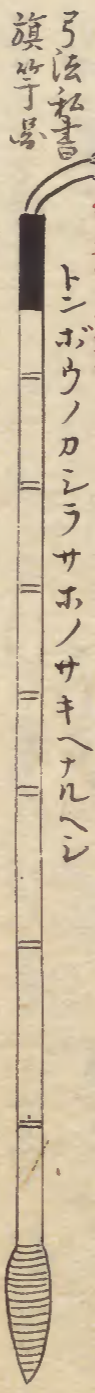
一 又云同旗の旗元ハ旗の終を右におき旗を左におき後元ハ右におき

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法



一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

○一幕

是印記云軍陣を陣元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

幕

一 又云軍の道見より後元ハ右におき前元ハ左におき又云軍路の法

九ふも又四方ふもす一上ハさうり也也一入ふささきをとぐりしは岸れ也
一の二と一入ふよ金カネをりけてすふぢのどくする是あふをほくる
也古也也

一又玄山ハあつて幕中をほき幕をち三松の本敵に向て我左よりつぎ始て
仍一帖の幕中申ハ本ハ幕中はわゆる一自文云ハ一帖と云ハ三ツラニ
羊ト云ハ一ツをツラナリ一帖ちつ
附ハ幕中乃多を何方かして目目をす一とくよちほけぬる今をあら
目見のさひのささうのめし内より又れを左前のめし又幕中をち附も
幕の内をも目目をさるち路のあても又ちさうの方よりありと
目目をす一帖の附も中をすよち附ハ右左の方へれも目目を
べ一内も始の方よりちをりさのめくすべ一

一八廻日記口傳云幕中長サニ丈六尺金乳乃長サニありてさ寸斗よ乳を付
くは二寸入ありさ付くはあはさひわらん白くこを一つ宛まて付一自文云
乳色也
つあも白黒あはさひこ色ちをさる幕より四方へあふちさるけりす一
文をふ幅イッパよちけてあふち付一我家の文さう一月ハ右よ口をハ左よちうを
ちけくはち將ハ口のあふより出入をく一物ハ月のおえより出入をく一星の教
自文云本書ニハケ糸ノ奥ニ文明十八年六月廿日ニ忠判トアリて此ニ幕の事ニ忠より
ハ七ニ相傳ふて和事ノ由奥書ありて其忠判トあり小会左近將監其忠あり

○一團トキノ氣キ 出陣イッパけ書云軍陣イッパをささの發上る又初イッパが將ふとれ
いくといをも急の者こくと永く云一に度やとと上一けハハ麻

一武雜記云こさけあハ左より石イッパあげハ右より左イッパあげハいむ

トキノ声

○ 一 軍陣 雜事

記云 分取

高名

一 介で取らるるを分取云々名と申之候も奥足以下と申之候も
申之候人の此と漏れなきはめ申之候も此をばえ申之候も
あつち申之候も

一 又云り一 びと敵の乞ふありて一 所は幾日何事あるか
一と申合陣倍又びと申之候も一 者よおせ申之候も
別よと申之候も一 人神の御事申之候も一 申之候も
一 又云軍法を申之候も一 紙のひきあをこれひくと云 名詮の
ひてれぬと秘す

一 又云隣系人の酌り呑すもの及身をとらたつて我刀をよと申之候も
一 囚人おそれ申之候も一 一 段のうぐい
一 又云びとを申之候も一 申之候も一 是をびと申之候も一 段の
悟秘まて一 申之候も一 候あり
一 又云申之候も一 酌するもの ツツバツナリ 自然人も多くて
後いひびとをばして申之候も一 申之候も一 候あり

一 又云りやどのよる人 一 候て持も 一 申之候も一 申之候も一 軍陣雑事を

軍陣雑事

切腹人

諸聞書條々云腹を切らんと酒を呑む者ハ昆布乃草

と後と也貞丈云云人の草トハ昆布をききむ といひまハ條の系あり

そりあまはむひのけいれ也後者も忘むりもいれぬ 此をハ草の根

おて包む方乃はより魚ハ貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

てしハ片足貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

用ハ貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

多す貞丈云いてしりのみちり 包む方のらハ

切腹人

一 為家法集云人腹を切する時の者の事益より後よ者を由之細腹

